

IZEC行政情報セミナー（愛知県編）ウェビナーQ&A

	質問	回答
1	<p>あらゆる産業・分野に対して、様々な工夫を凝らした取組みをご紹介頂きましたが、需要側の脱炭素化に見合うだけの、再生可能エネルギーの供給量拡大（置換）の見通しは明るいのでしょうか？例えば、日本は再エネ・EVの導入普及が世界と比較して遅れているなどのニュースも耳にしますが、脱炭素化の見通しが特に厳しいと考えられる分野・業界などがあれば、愛知県の事情を対象に教えて頂けますでしょうか？</p>	<p>再生可能エネルギーの供給量については、「あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）」（以下、「戦略」という。）において、2030年度の再生可能エネルギーの導入目標を2021年度時点の1.7倍となる580万kWに設定しております。本県は、再生可能エネルギーの導入目標の達成に向け、再生可能エネルギーの更なる利活用を推進していきます。</p> <p>また、脱炭素化の見通しが特に厳しい分野についてですが、温室効果ガスの2013年度比46%削減を達成するためには、どの分野においても高く、厳しい目標を達成していく必要があります。本県では、戦略で定めた6つの重点施策を柱として、「徹底した省エネルギー」と「創エネルギーの導入拡大」を加速するとともに、愛知発の脱炭素イノベーションの推進や水素利用の拡大などにより目標の実現を目指します。</p>
2	<p>愛知県の具体的なビジョン（目標年や供給範囲）は、当面、産業利用が主体でしょうか？現在、整備されている、都市ガスインフラの様に、水素ガスが市販のFCV車の燃料ステーションや、一般家庭の燃焼ガスとして広く供給されるようになるのでしょうか？そのための課題や見通しを、教えて頂けますでしょうか？</p>	<p>中部圏水素・アンモニアサプライチェーンビジョンにおいては、中部圏水素利用協議会が水素需要ポテンシャルを算定しており、発電、石油精製/化学、工場における利用が90%以上を占めておりますが、多種多様な産業での水素の利活用が見込まれています。</p> <p>また、モビリティ分野の需要拡大に向けて、水素ステーション等のインフラ整備を推進することとしています。その他の用途の利用は上記に比べて小さくなると想定されています。</p> <p>水素の供給については、関連する法規制や水素機器の開発、輸送方法の確立などの課題があると考えますが、それぞれの課題の解決に向けて取組を進めています。</p>
3	<p>中部圏水素・アンモニアサプライチェーンビジョンの中部圏の水素・アンモニア需要量の目標について、これによるCO₂排出量低減の試算は如何。</p>	<p>水素やアンモニアは使用時にCO₂を排出しませんが、それらの製造方法によって正味のCO₂削減量は異なります。また、転換が進む産業や既存燃料（石炭、天然ガス等）の種類によってもCO₂削減量は異なります。このため、CO₂削減量は試算しておりません。</p>